

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年1月13日

【評価実施概要】

事業所番号	2570600201
法人名	特定非営利活動法人 ホームママ
事業所名	グループホーム 介の羽
所在地	〒525-0071 滋賀県草津市南笠東3丁目21-71 (電話) 077-564-1177

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成21年12月24日
評価確定日	平成22年6月11日

【情報提供票より】(平成21年10月28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 4 月 1 日
ユニット数	1 ユニット
職員数	7 人
利用定員数計	5 人
常勤 2 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 3.5 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造瓦 造り
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 40,000 円	その他の経費(月額)	35,000 円	
敷 金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(500,000 円)	有りの場合 償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	100 円
	または1日当たり	1,600 円		

(4) 利用者の概要(10月28日現在)

利用者人数	5 名	男性	0 名	女性	5 名
要介護1	0 名	要介護2	1 名		
要介護3	2 名	要介護4	0 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.8 歳	最低	72 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大道クリニック
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

草津市の閑静な住宅街に民家を改築し家庭的な雰囲気を大切に開設されたホームです。定員が5名という少人数で、利用者と職員が身近に感じることができ、密に関わりを持つことから信頼関係が構築されています。利用者の生活歴や思いを理解することから始め、個々のペースで生活できるように支援することに努めています。開設から7年が過ぎ利用者の重度化もみられましたが、協力医や家族、職員とが思いを合わせ可能な限り看取りまで支援されています。理事長を中心に常にホームの課題を持ち、少しずつサービスの質の向上に取り組んでいこうと考えられているホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果をもとにケアマネジャーを中心にカンファレンスを開き課題の解決に向けて話し合いました。プライバシーの確保のため二人部屋にカーテンを取り付けるなどの取り組みを行いました。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は管理者が記載し、職員に読んでもらい周知を図りました。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、利用者をはじめ家族、連合会会長、民生委員、草津市介護課職員等をメンバーとし、2か月に1回開催しています。利用者の介護経過や行事、医療との連携状況などの報告を行い、出席者から意見交換の場となっています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ホーム玄関に意見箱置いたり、家族の訪問時に意見や要望を聞く機会を持っています。話された意見や要望は職員間で話し合い対応策を考え実践しており、家族にもその結果を報告しています。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し敬老会や運動会、夏祭り等の行事に参加し交流しています。地域の掃除や自治会の総会には職員が可能な限り出席しています。中学生の職場体験も受け入れ訪問してもらう機会もあります。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの開設の際に、利用者一人ひとりの思いを汲み取り個別の支援をしていきたいという理事長の思いを言葉にし、事業所の理念を作りました。	○	当該ホームは、地域に根差したホームとなるために様々なことに取り組んでいるため、その思いを職員間で話し合い現在の理念に加えられてはいかがでしょうか。
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関の解りやすい場所に掲示されています。毎月のカンファレンスでは理念に沿ったケアができていないかを確認する場となり、個々の利用者の支援に活かされています。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し敬老会や運動会、夏祭り等の行事に参加し交流しています。地域の掃除や自治会の総会には職員が可能な限り出席しています。中学生の職場体験も受け入れ訪問してもらう機会もあります。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果をもとにケアマネージャーを中心にカンファレンスを開き課題の解決に向けて話し合いました。プライバシーの確保のため二人部屋にカーテンを取り付けるなどの取り組みを行いました。今回の自己評価は管理者が記載し、職員に読んでもらい周知を図りました。	○	全職員が自己評価に携わることで、サービスを振り返る機会とされると更に評価に対する理解が深まるのではないのでしょうか。
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、利用者をはじめ家族、連合会会長、民生委員、草津市介護課職員等をメンバーとし、2か月に1回開催しています。利用者の介護経過や行事、医療との連携状況などの報告を行い、出席者から意見をもらうなど、有意義な場となっています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談員の受け入れや市が主催するキャラバンメイト講座の協力などで市の担当者とは、相談したり連携しています。現在建て替えの工事中であり、建て替えに当たっても市との連携を密にしています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時にはコミュニケーションを多くとり、個々の暮らしぶりを話しています。毎月の請求書送付時に個人の写真に一言を添えて日頃の様子を伝えています。金銭管理はホームとしては行っておらず、必要時には家族に連絡をとり対応しています。ホームの便りは担当の職員が休職になり途切れていますが、今後再開したいと考えられています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム玄関に意見箱置いたり、家族の訪問時に意見や要望を聞く機会を持っています。話された意見や要望は職員間で話し合い対応策を考え実践しており、家族にもその結果を報告しています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	個々の職員の事情に合わせてシフト調整を行い、しっかり休みを取れるようにしたり、カラオケ等の慰安会を行うなど離職が少なくなるよう配慮し、実際にも離職はほとんどありません。新任の職員には利用者や馴染みの関係が築けるまで夜勤をせずに日勤とし、利用者の生活に影響のないように支援しています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の会議の際に勉強会を行ったり、外部研修に行く機会を少しずつ作っています。外部研修を受講した職員は、報告書を記入し会議で伝達研修を行う等、職員間で共有することに取り組んでいます。	○	職員の習熟度や経験の違いから技術や知識の差を埋めていきたいと考えられています。個々の職員に目標設定を一緒に考え、少しずつステップアップできるような取り組みを期待します。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	草津市のグループホーム協議会に管理者が参加したり、キャラバンメイトの講座の際には同業者との交流があります。しかし、職員間の交流には至っていません。	○	職員間の同業者との交流を実現することで自らのサービスを振り返り、また今後のサービスに活かせるような取り組みを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に体験利用をしてもらい、その際に本人の思いを多く聞くように努めています。家族とも協力が得られるように納得できるまで話し合い、本人や家族と信頼関係を築きながら利用開始に繋げています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と一緒にテレビを見たり調理をするなど日常を過ごす中で、共に楽しんだり教えてもらう機会が多くあります。利用者の生活歴やできることを理解し、得意なことを教えてもらえるようコミュニケーションを図っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に生活歴を詳しく聞き取り、利用者の言動から本人の意向を汲み取るようにしています。入居時には情報を整理し書面に残していますが、アセスメントの様式が定まっておらず記録に残されていません。	○	利用者個々の生活歴を踏まえて、その時のできることや解ること、利用者自身の思いを職員間で検討し、アセスメントとして統一した様式で残されてはどうか。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者を中心に毎月行われるカンファレンスで個々の利用者についてのケアについて話し合わせ、介護計画を作成しています。家族の来訪時に意向を聞いたり、往診時には細かな医師からのアドバイスがあり、介護計画に反映しています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画に基づいて実施チェック表を作り、毎日チェックし記録に残し、3か月ごとの定期的に見直しをしています。以前は行っていたモニタリングを現在は行っておらず、評価をしたり見直しの際の記録が残っていません。	○	実施した内容を評価する機会を定期的に持ち、モニタリングの記録として残されていくことを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の行くことのできない時の通院の同行や理美容に行けない利用者には希望に応じて訪問理美容に来てもらったり、家族や本人の希望に合わせた支援を行っています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人と家族と相談したうえで、現在は全員が協力医の在宅診療指導として2週間に1回の往診を受けています。職員に看護師が2名おり日頃の健康管理を行い、往診医からは利用者の情報をノートに記してもらい、個々にあった医療が受けられるように支援しています。24時間連絡できたり、協力医が往診日以外にも来訪してくれるなど安心の体制が整えられています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化や看取りの指針を説明しています。今までに3名の看取りの支援を行っており、家族や医師、職員等と繰り返し話し合いながら、思いを同じにして取り組まれています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	尊厳をもって誠意ある介護をという思いのもと言葉づかいや対応には注意を払っています。家族や身内が聞いてどう感じるかを大切に、不適切な対応が見られた時には、カンファレンスの場やその場を離れて注意をしています。利用者や家族の希望を聞き、呼び方も検討されています。個人情報の書類はリビングの書庫に表からわからないように保管されています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床から就寝まで決まったものはなく、個々のペースに合わせて暮らせるように支援しています。声をかけながら本人の意思を確認し、得意なことを行いながら暮らせるように支援しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の時間には自然にお箸などのテーブルセッティングをする利用者がいたり、調理のアドバイスをしてくれるなど、個々のできることを行ってもらっています。職員は利用者と同じ食事を食べ、会話を楽しみながら必要な方には介助も行っています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴のため2名の介助者が必要な利用者が複数おり、時間帯や曜日が決まりがちになっていますが、希望があれば可能な限り対応しています。安全に入浴できるように支援しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備や洗濯物をたたんだり、生活の中で役割と感ぜられる方やぬり絵や習字など趣味を楽しめる方もおり、張り合いのある生活を支援しています。以前に自治会の役員をされていた利用者には、カンファレンスに参加してもらい活躍の場があります。今後、更に楽しみ事を増やしていきたいと考えています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や気候の良い時に地域の会館やグラウンドへ散歩に出かけています。ゲートボールを見たり顔なじみになった近隣の方々と挨拶を交わしたり楽しんでいます。季節に応じて桜や蓮、紅葉を見に行くこともあります。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は意義を理解したうえで日中は鍵をかけないケアに取り組んでいます。玄関にセンサーを設置していますが、必要時のみの使用しています。一人で外に出られたこともあります。近隣のお店から連絡が入るなど、地域からの協力も得られています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、うち1回は消防署の立会いのもと避難訓練を行っています。運営推進会議で地域の方々への協力を働き掛けています。しかし、日中の想定でのみの訓練であり、夜間を想定しての訓練は行っていません。	○	夜間は勤務している職員が少なく、利用者の様子も日中と異なるため、夜間を想定し避難訓練を行うなどの取り組みを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	業者の栄養士が立てた献立を基本としバランスの良い食事を提供しています。食事量や水分量をチェックし記録に残しています。利用者の状態に応じて刻んだりトロミをつける、ミキサー食などの対応しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家を改築されたハード面であり、家庭的な雰囲気があります。現在は使われていませんが、階段には昇降機を設置し重度化にも対応できるようにしています。限られた空間ですが、ソファを置き寛げる空間があったり、写真や花を飾るなど居心地良く過ごせるよう支援しています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの物や家具などを持参してもらっています。小さなタンスや鏡台などを置いたり、人形をベッドに置いたりカレンダーをかけるなど安心できる空間作りを工夫しています。		